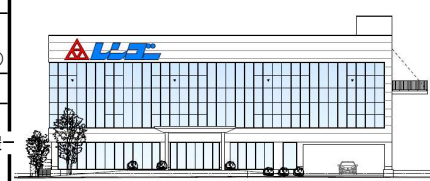


CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称)レンゴ-(株)八潮工場 事務所	階数	地上3F
建設地	埼玉県八潮市	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,420 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年4月 予定	評価の実施日	2022年12月16日
敷地面積	2,228 m ²	作成者	関根建築設計事務所 関根 禮一
建築面積	1,295 m ²	確認日	2022年12月16日
延床面積	3,661 m ²	確認者	関根建築設計事務所 関根 禮一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 73% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 73%

④上記+ 73%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 3.0

Q1 室内環境: 3.2

Q3 室外環境(敷地内): 2.7

LR1 エネルギー: 4.3

LR2 資源・マテリアル: 3.2

LR3 敷地外環境: 3.5

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
建築物廻りに植栽を記し近隣住民への環境を踏まえながら、圧迫感のない建築物とし、設備面においては、「消費エネルギーの削減」「快適性・生産性の向上」「事業継続性の向上」に取り組む姿勢を内外に強くアピールすることで、地域全体に環境配慮への関心を高め、高めていくことに貢献する。		
Q1 室内環境 複層ガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。また、補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー 高効率空調機、LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。太陽光発電システムを採用するなど、エネルギー面にも配慮している。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。また、フリーアクセスフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
仮称)レンゴ-八潮工場事務所棟新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目										
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.2
1 音環境						3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音		事務所 天井:ロックウール吸音板、床:タイルカーペット				4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						3.1	0.35	-	-	3.1
2.1 室温制御						3.2	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		窓SC:0.25窓U:2.80、外壁U:0.51、屋根U:0.35、床U:2.67 Low-E複層ガラスを採用、断熱性能を有する				4.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.4	0.25	-	-	3.4
3.1 昼光利用						4.2	0.30	-	-	
1 昼光率		事務所 昼光率:3.3%				5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		事務所 設計照度750lx				1.0	1.00	-	-	
3.3 照度		事務所 照度センサーを採用				4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.2	0.25	-	-	3.2
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	-	-	
4.2 換気						3.6	0.30	-	-	
1 換気量		建築基準法を満たす換気量の1.4倍以上(建築物衛生法は対象外)				5.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.1
1 機能性						3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務所 天井高2.8m、及び外壁面全体に窓を設置している 執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを設置している				4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース						4.0	0.33	-	-	
3 内装計画		建物全体のコンセプトや機能が明確であり、内装計画に反映している				4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		外壁:鋼製パネル:30年				5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		天井:RW吸音板:30年、壁:ビニルクロス:15年、床:タイルカーペット:15年				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:塩ビ:B、汚水、雑排水:塩ビ:B、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.29m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.18	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	ケーブルラック、保護管内配線等により構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック、空配管等により構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能を上げ、建物の熱負荷を抑制している BPIm=0.75	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.63	4.7	0.50	-	-	4.7
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	設備の運用については、運用・維持・保全等の基本方針、及び年間エネルギー消費量の目標値を定め建築主へ提出する	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓を主要水栓の過半に採用し、加えて擬音装置を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+LGS+仕上とし、躯体と仕上材が容易に分別可能 再利用できるユニット部材としてOAフロアを採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率73%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	室内にゴミの分別回収ボックスを計画し、有価物の定期回収を行う	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリスト項目の過半を満たし、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	

	2	屋光の建物外壁による反射光(glare)への対策	3.0	0.30		-	
--	---	----------------------------	-----	------	--	---	--

CASBEE埼玉県 重点項目シート






■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	仮称)レンゴー(株)八潮工場 事務	BEE	1.7	BEEランク	★★★★
------	-------------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.0	+	2.6	=	6.6	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	4.0
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.0
＜配慮した内容を記述＞ 高効率空調機、LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。 太陽光発電システムを採用するなど、エネルギー面にも配慮している。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
＜配慮した内容を記述＞ 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。 隣等間隔を空けて風が回復するような工夫を行っている。			

:入力欄